



2025年3月期 OUGホールディングス 決算要約説明資料

目 次	
1	OUGグループについて
2	2025年3月期連結決算 ハイライト（1）
3	2025年3月期連結決算 ハイライト（2）
4	決算状況（1）～連結決算概要～
5	決算状況（2）～セグメント別の売上高とセグメント利益（1）～
6	決算状況（3）～セグメント別の売上高とセグメント利益（2）～
7	主要セグメントの状況1（水産物荷受事業） （参考）大阪市水産市場における主要取扱水産物の価格推移
8	主要セグメントの状況2（市場外水産物卸売事業） （参考）市場外水産物卸売事業の営業環境の推移
9	主要セグメントの状況3（養殖事業）
10	「OUGグループ中期経営計画2024」の2024年度実績
11	2025年度計画・予想と配当方針・配当予想について
12	連結キャッシュフロー計算書の概要
13	連結経営指標の推移（5期推移）
14	よくあるご質問について

1 OUGグループについて

グループ経営理念

水産物をコアとし、お客様に価値ある商品とサービスを提供することにより、食文化の発展に貢献します。

OUGホールディングスとグループについて

○ OUGホールディングスの沿革概要

1947年10月 大阪市中央卸売市場本場において水産物卸売業者として創業しました。
一貫して、水産物の安定供給に努めてまいりました。

1948年 3月 商号を**大阪魚市場株式会社**としました。

2006年10月 業界を取り巻く環境の変化に対応するため、大阪魚市場株式会社は会社分割を行い、**純粋持株会社**として社名を**OUGホールディングス株式会社**に変更し、グループ経営を推進しております。また、水産物荷受事業は引き続き株式会社うおいちが担っております。

○ グループ主要会社の事業概要

株式会社うおいち 大阪等関西4中央卸売市場と1地方卸売市場での**集荷販売機能**を担う水産物荷受事業を中核事業として行っております。

株式会社ショクリュー 市場外水産物卸売事業を中核事業として、全国各地の販売拠点を活用した流通網を有し**水産物をコアとした食品流通サービス業**を展開しています。設立1949年6月からの業歴があり幅広い顧客ニーズに応えております。

株式会社兵殖 九州大分 長崎などで**ブリ・マグロの養殖事業**を展開。1962年の前身設立以来の海面魚類養殖に携わった技術力を活かし巨大生簀でのブリ養殖など独自生産システムを活用し事業展開をしております。

○ **グループ経営トピック事項** 『OUGグループ中期経営計画2024』の開始初年度である2025/3期は、**連結（経常利益58億円、当期純利益45億円）に加え、うおいち、ショクリュー、においても過去最高益を計上しました。**
当期末基準の配当（予定）につきましては、1株当たり97円（前期比22円増）としております。
引き続き、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて取り組み、持続的成長と一層の企業価値の向上を図ってまいります。

グループ経営ビジョン

新しい水産物流通サービス業を創造することによって企業価値を最大化します。

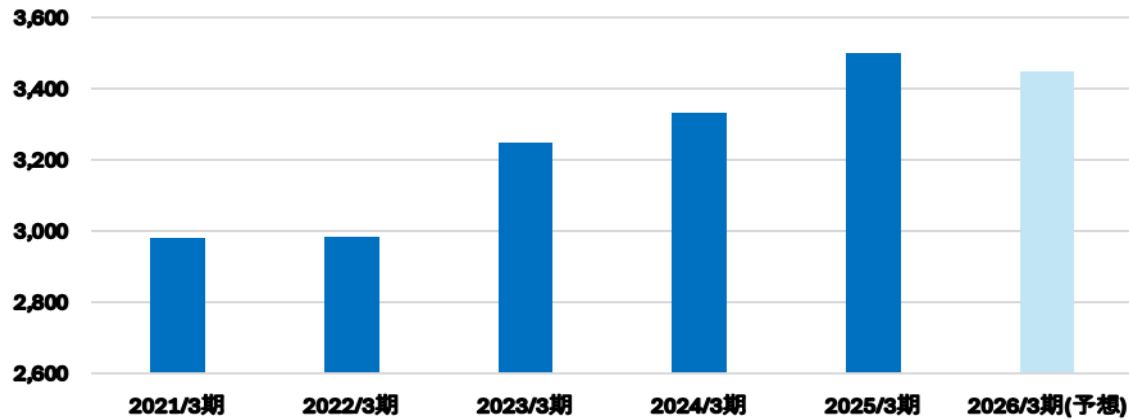
OUGグループの事業と会社

	事業/役割	所在地
OUGホールディングス株式会社	純粋持株会社	大阪市福島区
株式会社 うおいち	水産物荷受事業	大阪市福島区
株式会社 ショクリュー	市場外水産物卸売事業	大阪市中央区
株式会社 兵殖	養殖事業	大分県津久見市
株式会社 松浦養殖		長崎県松浦市
ダイワサミット 株式会社	食品加工事業	大阪市此花区
株式会社 トウニチ水産		大阪府茨木市
株式会社 ツナクラフトワークス		静岡県焼津市
株式会社 海老將軍		岐阜県大垣市
株式会社 ディ・ティ・ネクスト		京都府久世郡
舞洲流通センター 株式会社	物流事業	大阪市此花区
株式会社 ディ・ティ・ロジスティックス		東京都中央区
株式会社 大京	水産物仲卸事業	東京都江東区
株式会社 タイゲン		福岡県北九州市
株式会社 黒門三平	水産物小売事業	大阪市中央区
株式会社 トップ	保険・リース事業	大阪市福島区
(海外) DAIEI TAIGEN(THAILAND)CO.,LTD.	冷凍水産物の輸出入・加工事業	Thailand Bangkok

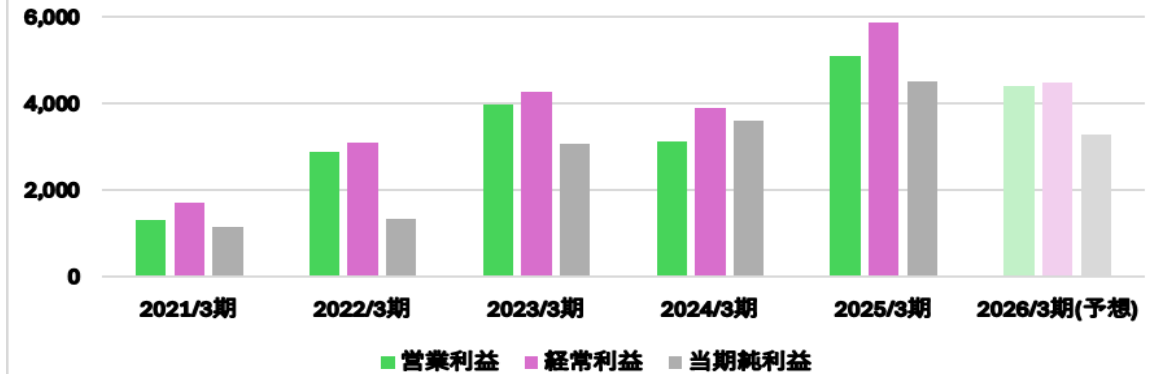
2 2025年3月期決算 ハイライト（1）

以下、単位未満は切り捨てで表示しております。

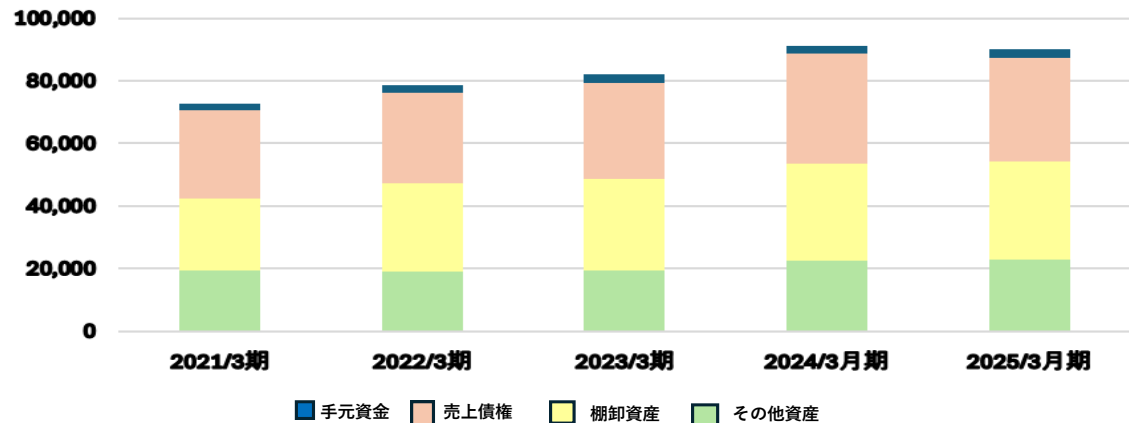
売上高推移（億円）



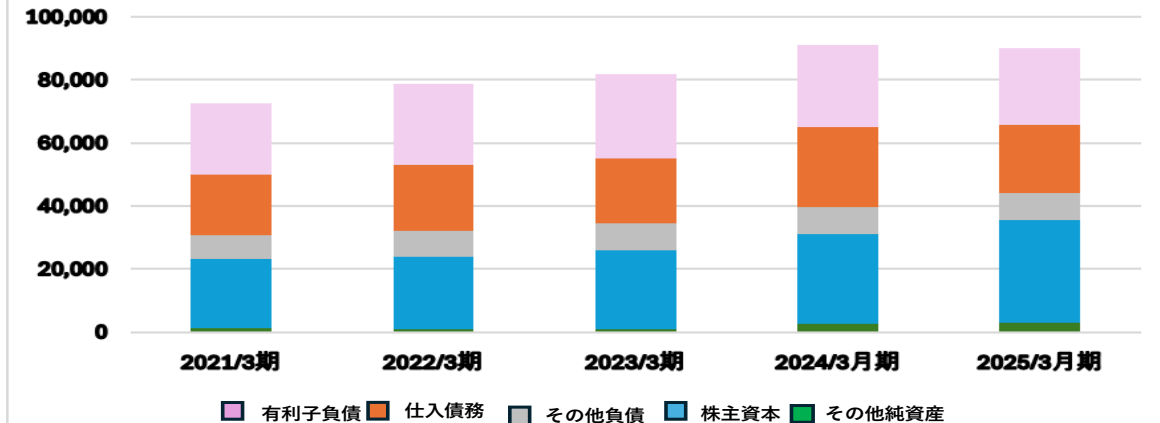
利益推移（百万円）



資産残高推移（百万円）



負債・資本残高推移（百万円）



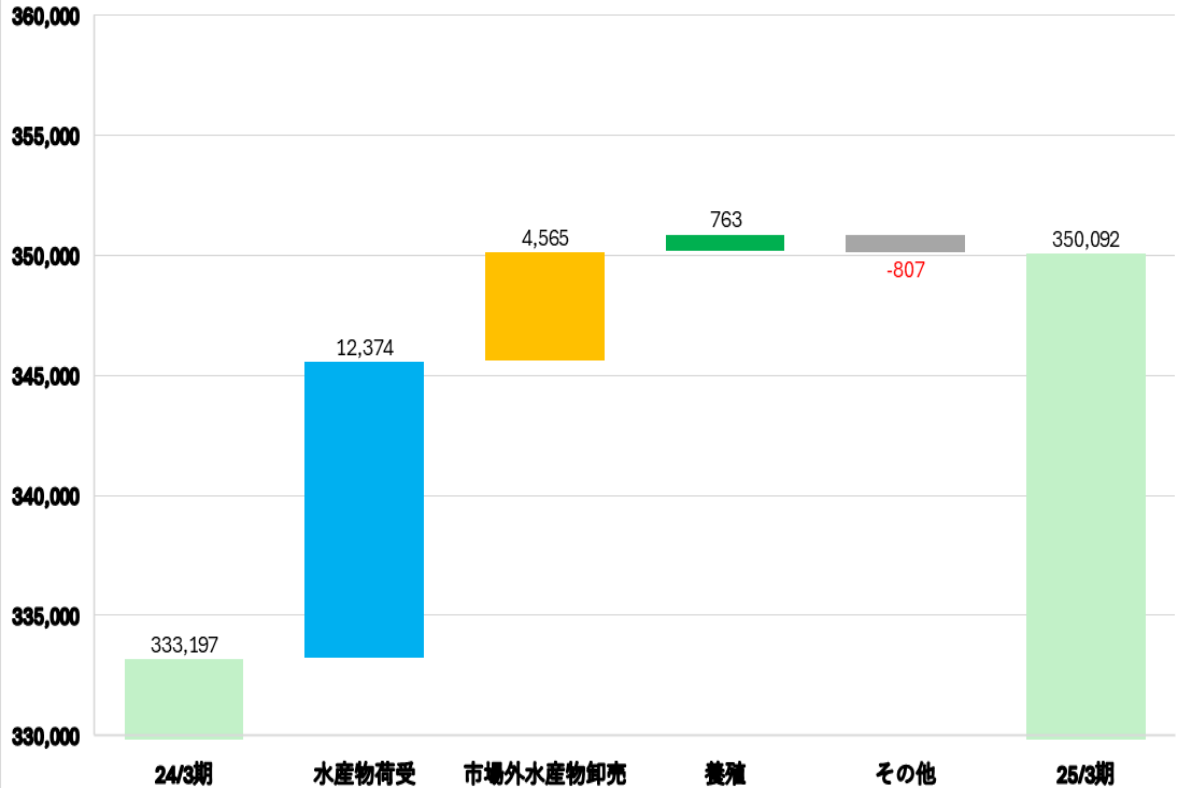
連結決算(百万円)	売上高	営業利益	経常利益
2024/3期	333,197	3,122	3,912
2025/3期	350,092	5,100	5,891
2026/3期（予想）	345,000	4,400	4,500

配当について	(1株当たり)
2024/3期	75円
2025/3期（予定）	97円
2026/3期（予想）	102円

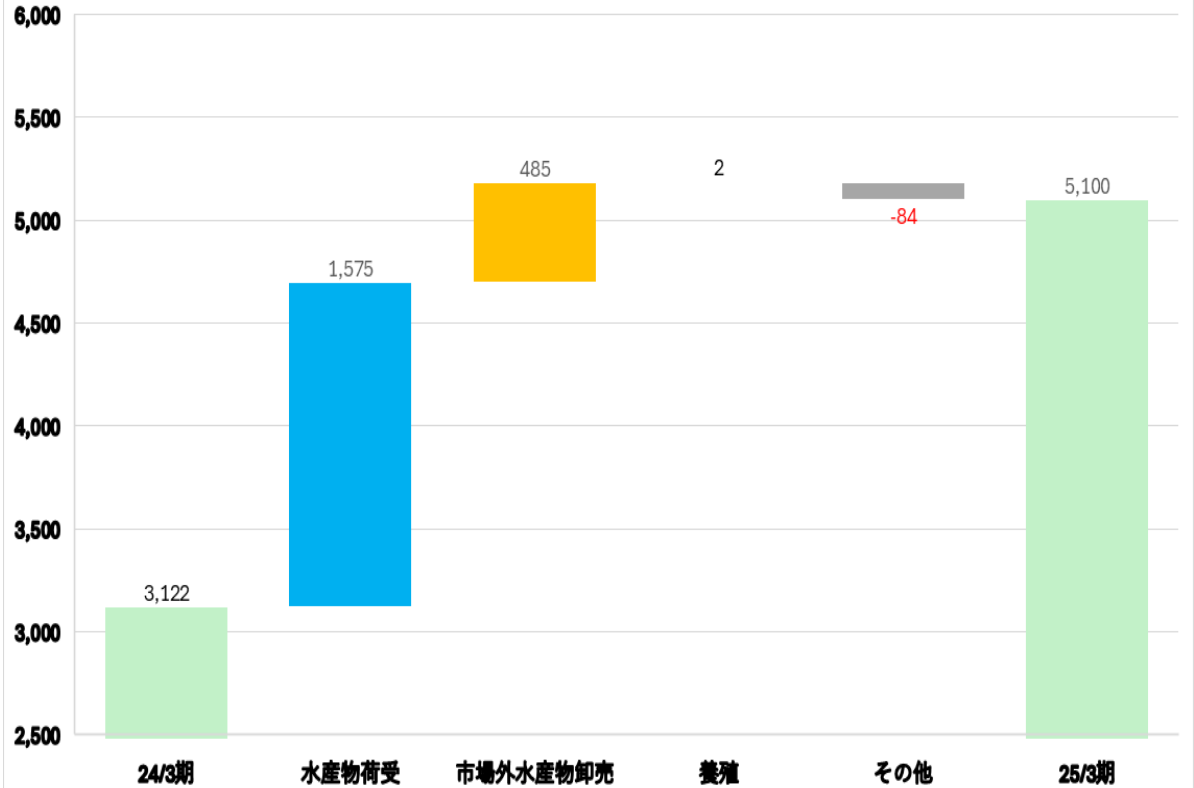
- ・2025/3期決算は売上・利益ともに順調でした。特に経常利益・当期純利益では過去最高益を記録いたしました。
- ・2025/3期末基準の配当（予定）は1株当たり97円（前期比22円増）としております。2026/3期末基準の配当（予想）は1株当たり102円としております。（株主資本配当率(DOE)1.6%目途）

3 2025年3月期決算 ハイライト（2）

売上高増減要因（前期比）（百万円）



セグメント利益（営業利益）増減要因（前期比）（百万円）

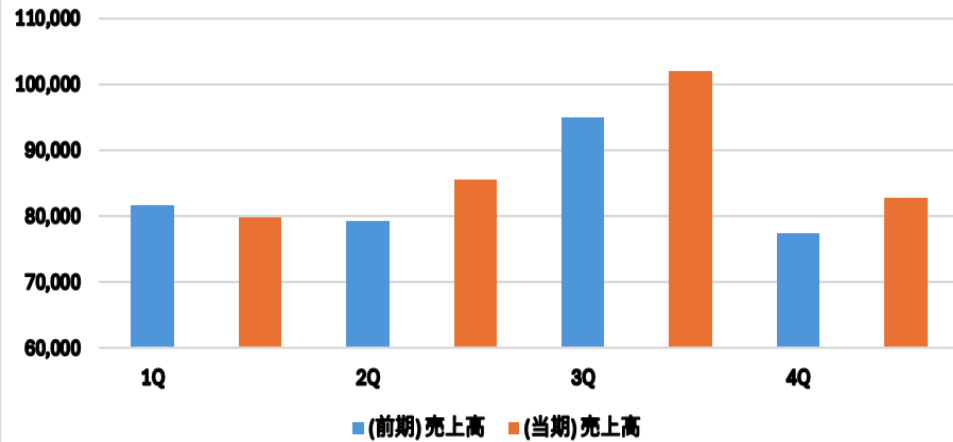


主要セグメント別では

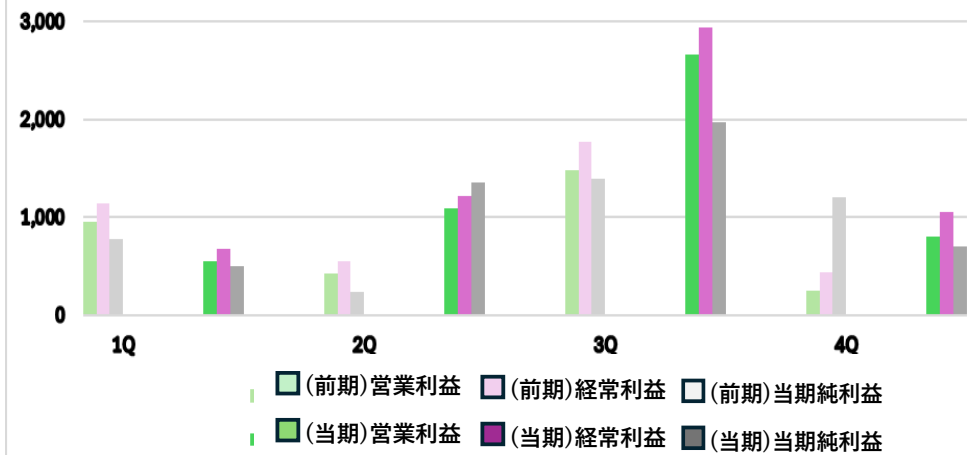
- ・中央卸売市場にて集荷販売機能をもつ水産物荷受事業は、販売単価の上昇および販売数量の増加による増収と粗利益率の上昇により増収増益となりました。
- ・全国各地に幅広い流通網を持つ市場外水産物卸売事業は、インバウンド需要等が好調な中、適正な利益確保を目的に上昇した商品調達コストを販売価格へ折込む努力などで増収増益となりました。
- ・養殖事業は、主力のブリの販売単価が上昇する中で販売数量が増加し増収となりましたが、餌料価格の高騰など生産コスト高から営業損失となりました。

4 決算状況（１）～連結決算概要～

2025/3期 四半期毎売上高推移（百万円）



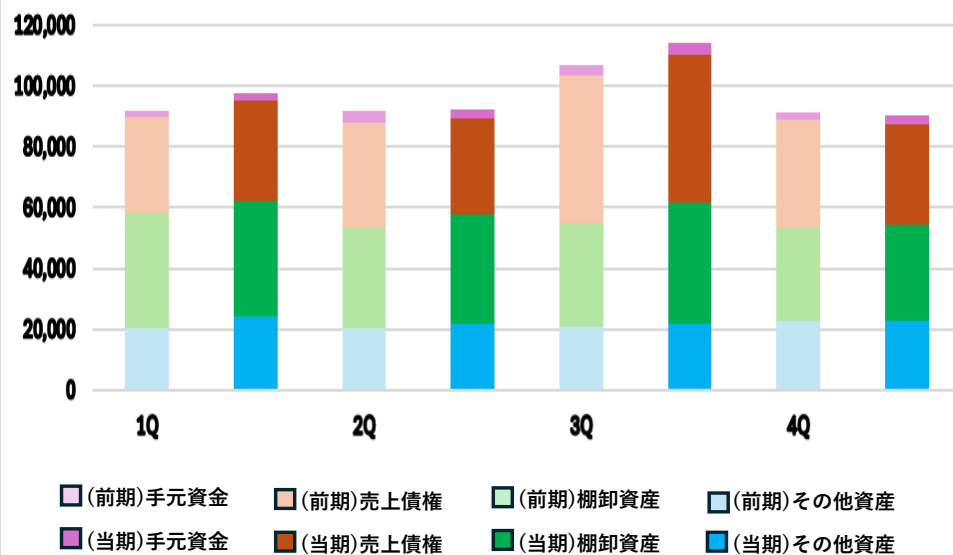
2025/3期 四半期毎利益推移（百万円）



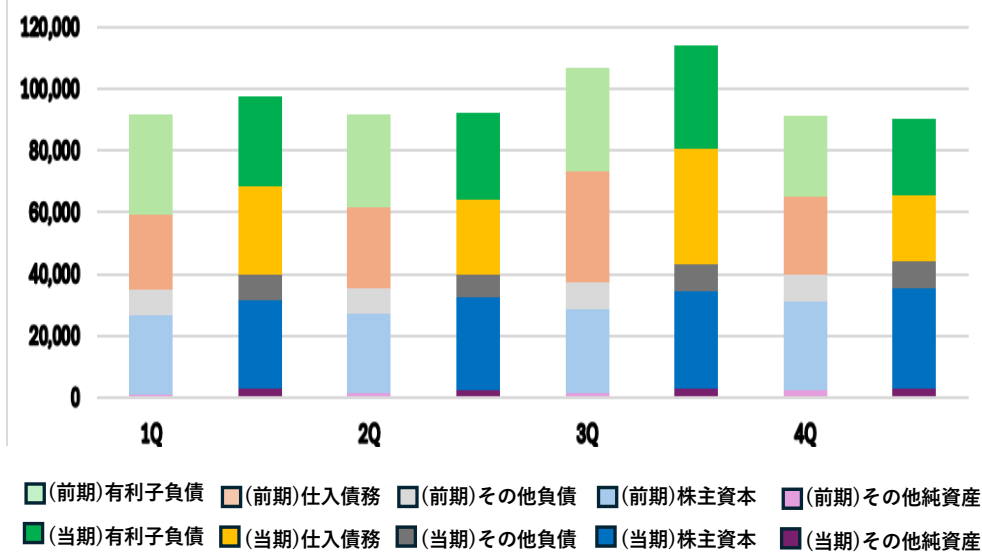
当期の実績は、売上高 3,500 億円（前期比105.1%）、営業利益51億円（同163.4%）、経常利益58億円（同 150.6%）と増収・増益。

なお、当社グループの売上・利益は、取扱う商品が水産物主体であることから、第3四半期に集中する傾向がある。

四半期末資産残高推移（百万円）



四半期末負債・資本残高推移（百万円）

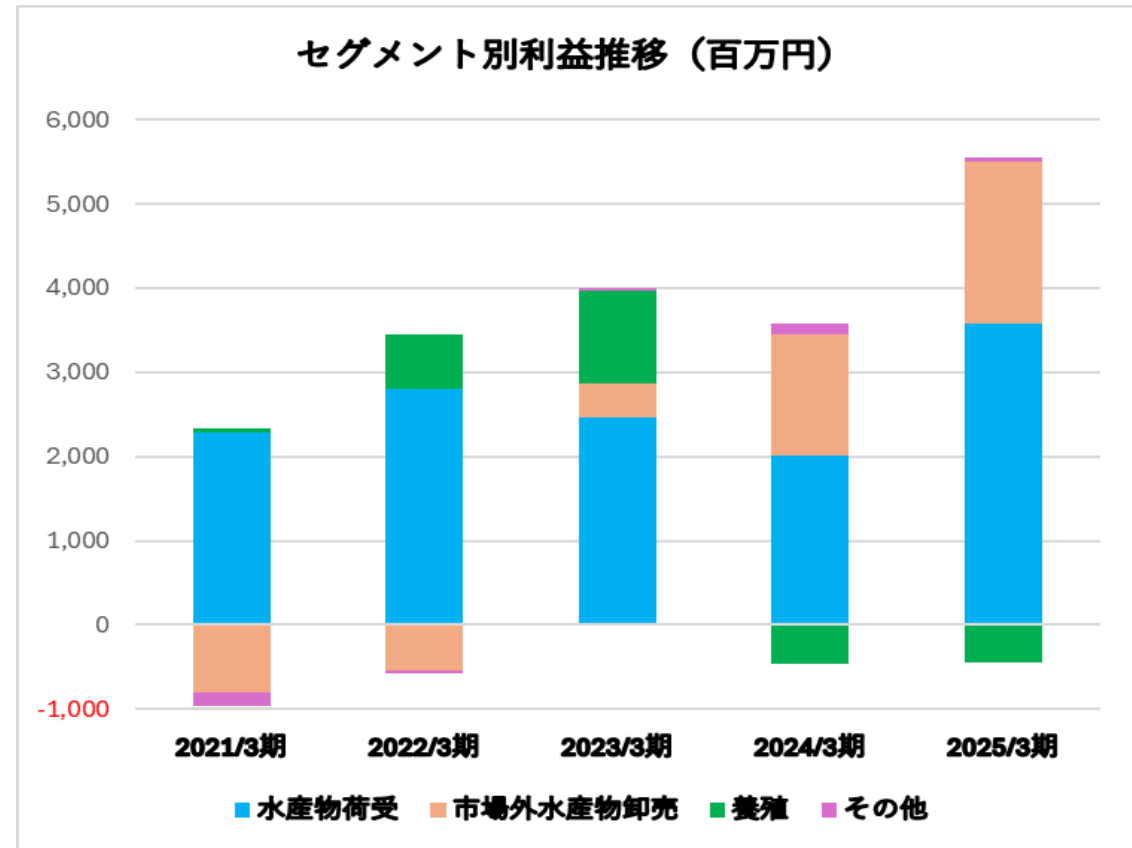
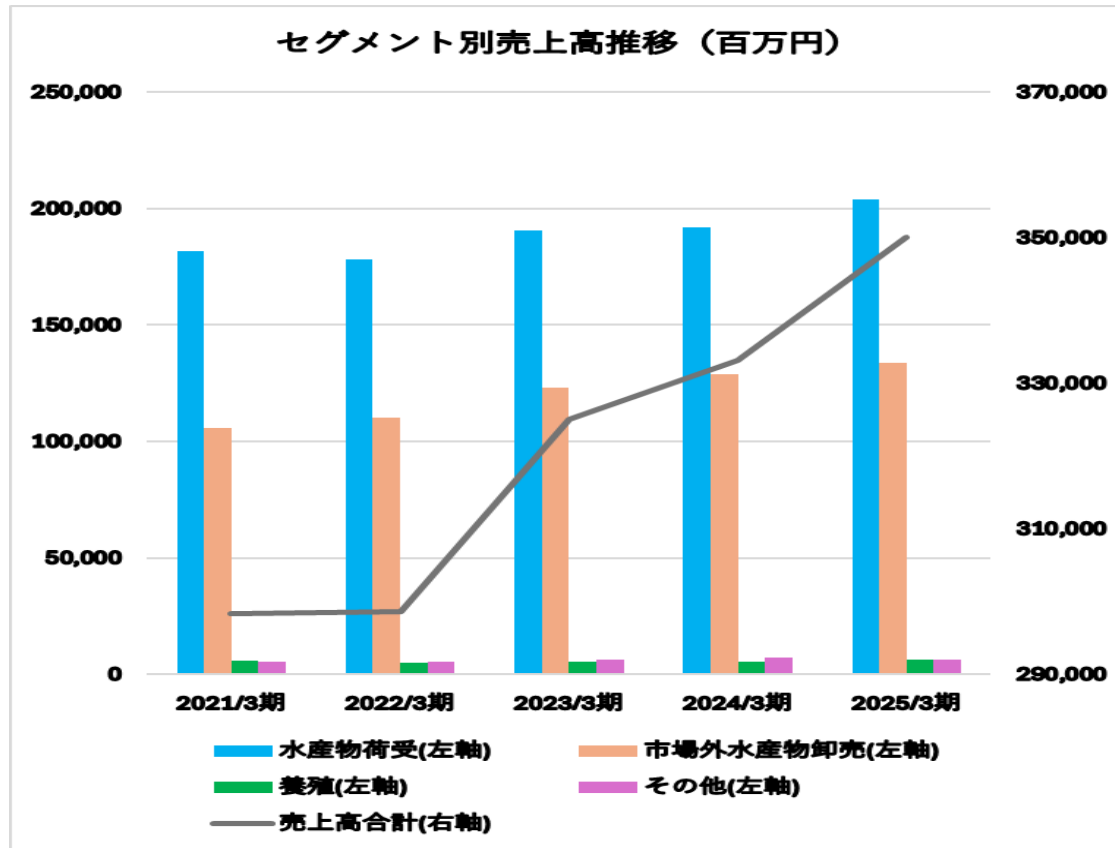


当期末の総資産は902億円（前期比▲9億円）となり、手元資金（現預金）残高は27億円（同▲3億円）、売上債権332億円（同▲20億円：前期末は日曜日であった）、棚卸資産314億円（同+6億円）などとなる。

一方、負債は、547億円（同▲54億円）となり、仕入債務216億円（同▲37億円）、借入金合計245億円（同▲15億円）などとなり、純資産は355億円（同+45億円）となった。

資産・負債等においても、例年第3四半期に売上債権・棚卸資産が増加し、それに伴い有利子負債・仕入債務もピークとなる。

5 決算状況（2） ～セグメント別の売上高とセグメント利益（1）～



当社グループは、水産物荷受事業・市場外水産物卸売事業・養殖事業・食品加工事業・物流事業などを幅広く展開し、主要セグメントは水産物荷受事業・市場外水産物卸売事業・養殖事業としている。

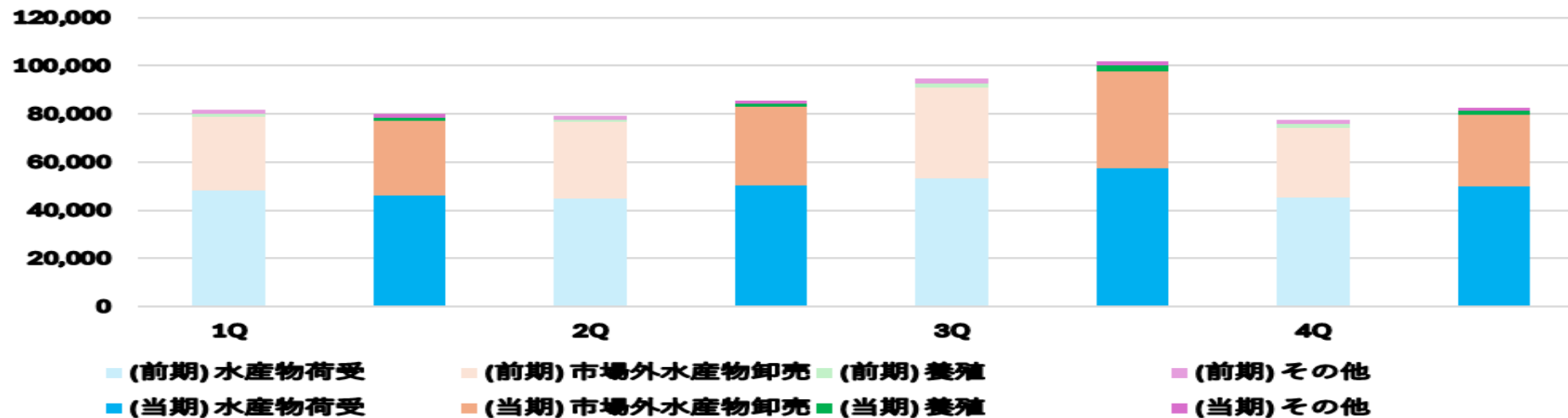
セグメント別の売上高については、水産物荷受事業・市場外水産物卸売事業は、それぞれ好調であり前期比増収。

セグメント利益（営業利益）については、水産物荷受事業および市場外水産物卸売事業は、好調であり前期比増益。一方、養殖事業は、主要生産コストである餌料価格が高止りし、セグメント利益はマイナス。

（主要3事業セグメントについては後述を参照）

6 決算状況（3） ～セグメント別の売上高とセグメント利益（2）～

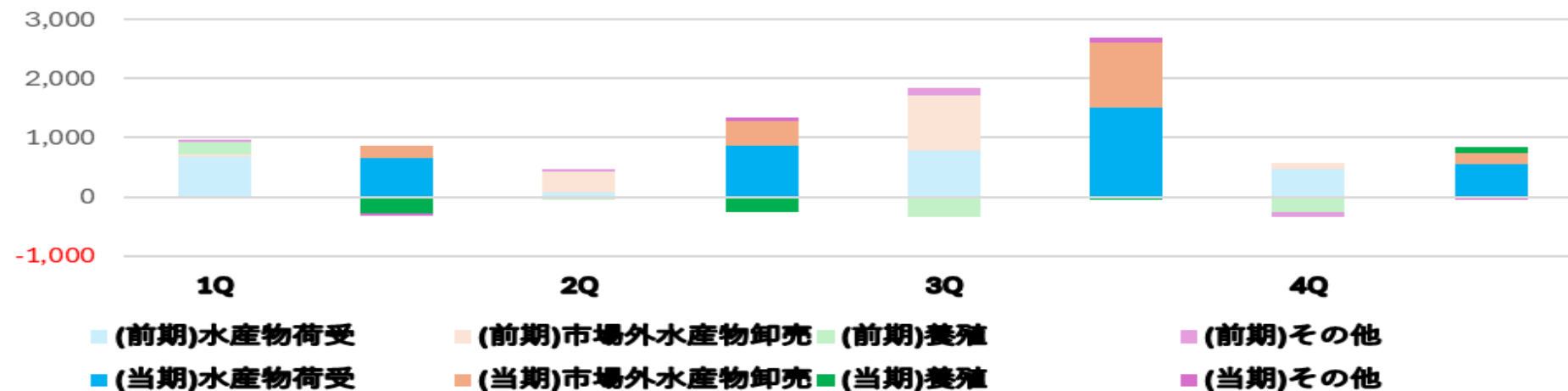
2025/3期 セグメント別売上高 四半期推移（百万円）



水産物荷受事業、市場外水産物卸売事業、養殖事業の売上・利益は、例年第3四半期でピークとなる。第4四半期は低調となる傾向がある。

2025/3期の第4四半期は堅調であった。また、養殖事業も主力商材のブリ相場が上昇し、セグメント利益は回復した。

2025/3期 セグメント別利益 四半期推移（百万円）

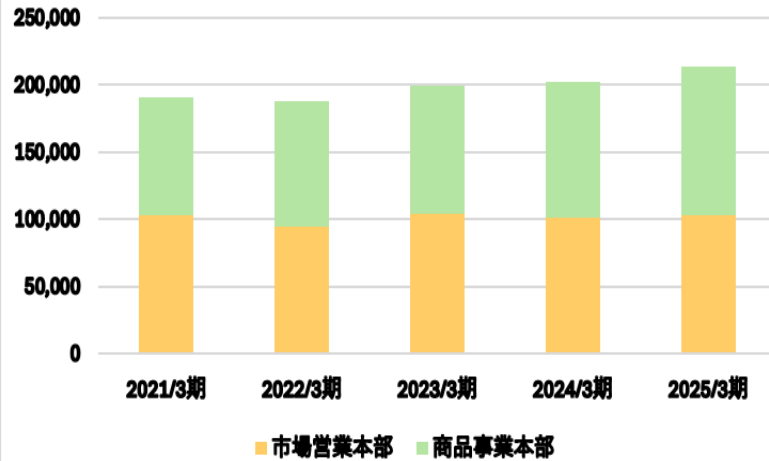


7 主要セグメントの状況 1（水産物荷受事業）

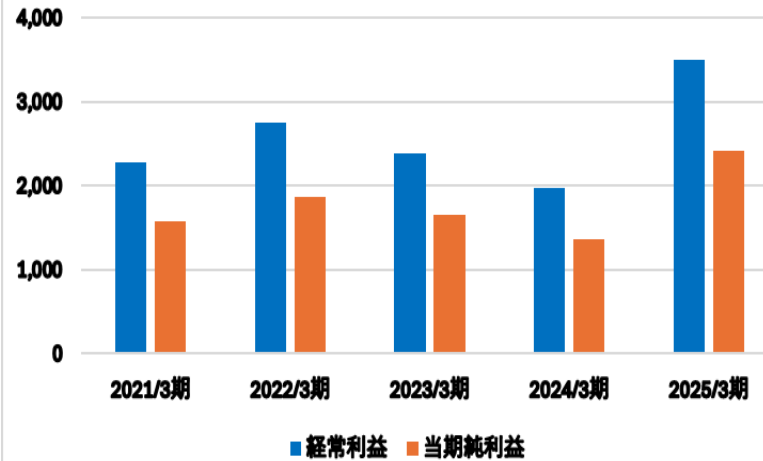
水産物荷受事業（株式会社 うおいち）の業績

（*）売上高には外部顧客向け売上のほかにセグメント間売上高を含む

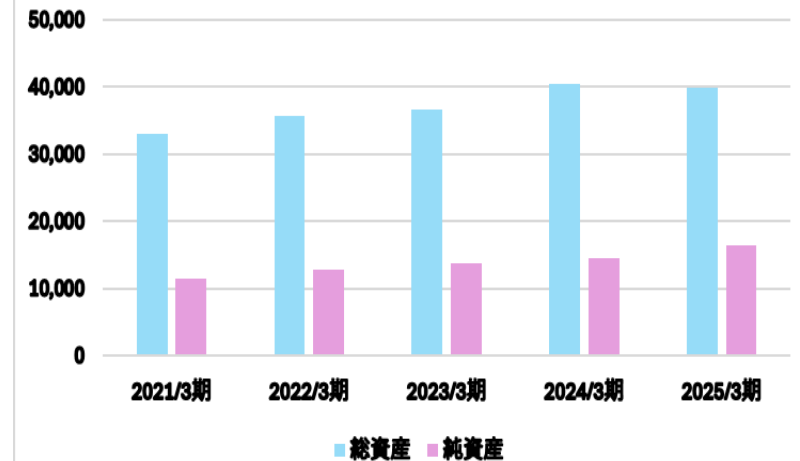
売上高推移（*）（百万円）



利益推移（百万円）



資産規模推移（百万円）



部門区分（市場営業本部）鮮魚部門と 加工商品部門を有し、近畿圏主要5市場にて水産物荷受業務を行う。
（商品事業本部）グループ内外と連携し、流通ネットワークを活用するなど商社機能を有する。

<事業状況>

（市場営業本部）第4四半期の鮮魚部門は、天候不順により集荷にバラつきが生じた。また、養殖魚の値上がりが続いており、全般に売上、利幅確保に苦慮した。加工食品部門は、前浜物、輸入物の加工原料不足が数年来継続したため加工製品の集荷に苦労。併せて、原料価格上昇による製品価格高も継続した。このため、鮮魚同様に仕入価格高となり、販売に苦慮した。

また、チリメンなどの入荷も不安定で販売は苦戦した。価格上昇および社内連携強化等により市場営業本部合計では増収となった。

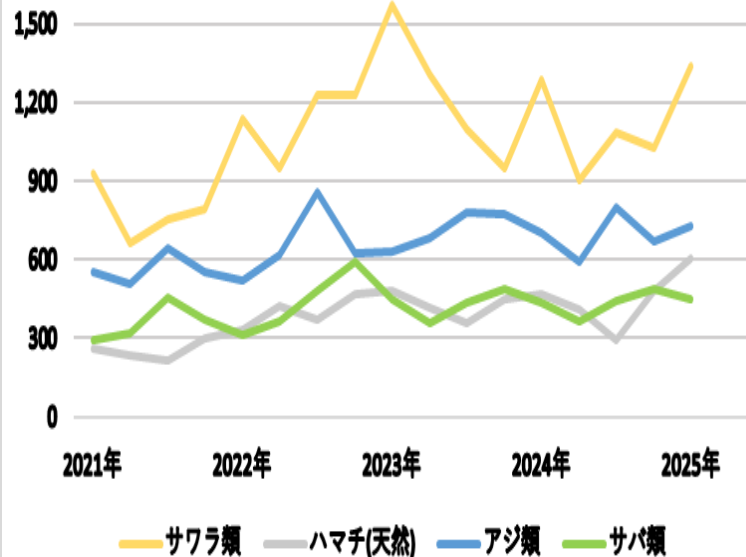
（商品事業本部）冷凍鮭鱒は堅調。冷凍マグロは相場の底打ち感から販売は引き続き回復。冷凍ホタテは好調。冷凍イカなどの商材に陰りがある一方、需要期を迎えた冷凍エビ・カニ等の販売も好調。商品事業本部合計で増収となる。

<損益状況>

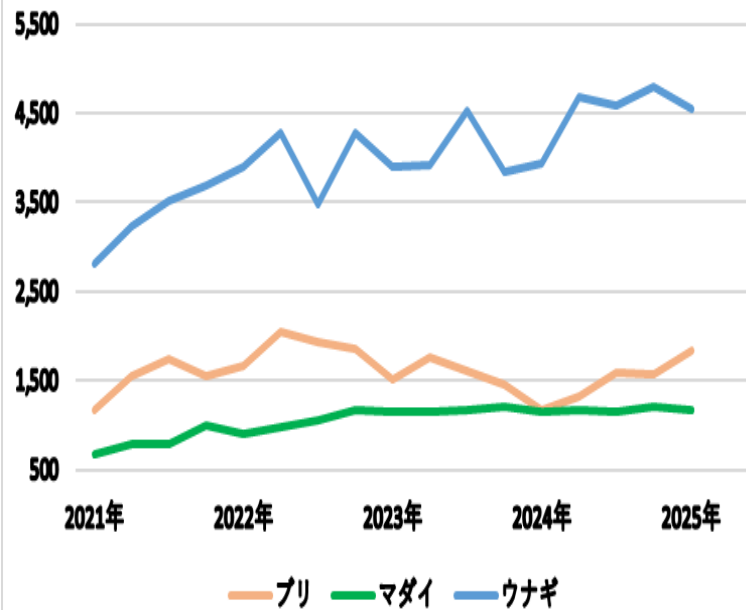
資材・物流費等の増加もあったものの、増収効果が大きく、適切在庫の保有および諸経費の抑制に努めた結果、増益を達成。

(参考) 大阪市水産市場における主要取扱水産物の価格推移 (利用統計は暦年ベース)

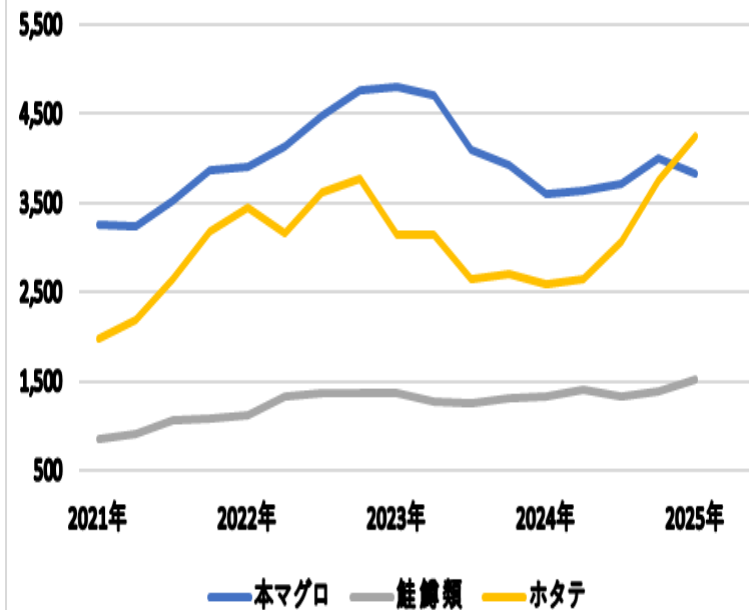
主要な生鮮魚種の単価推移 (暦年4半期末) (円/kg)



主要な養殖魚種の単価推移 (暦年4半期末) (円/kg)



主要な冷凍魚類の単価推移 (暦年4半期末) (円/kg)



<利用統計について>

単価推移は大阪市水産市場分の四半期末月の月中平均単価を当社で加工して使用 (大阪市の市場データ (本場・東部市場の市場データの合算分))。

(但し、2024年6月・9月・12月、2025年3月の冷凍魚類の単価については、大阪市の市場データの都合で大阪市場本場分を採用。そのほかの魚種については、両市場の合算分を採用。)

<主要水産物価格動向>

(生鮮魚種) 魚種により単価推移はまちまちながら、ハマチは復調が継続しアジ類は持ち直しがみられる。サワラ類は上昇幅が大きい、一方でサバ類は振るわず。

(養殖魚種) ブリは前年初頃をボトムに底打ち反発継続。マダイは引き続き変動幅小さく現状で安定推移。ウナギは高値圏入り後の今後の成り行きに不透明感が漂う。

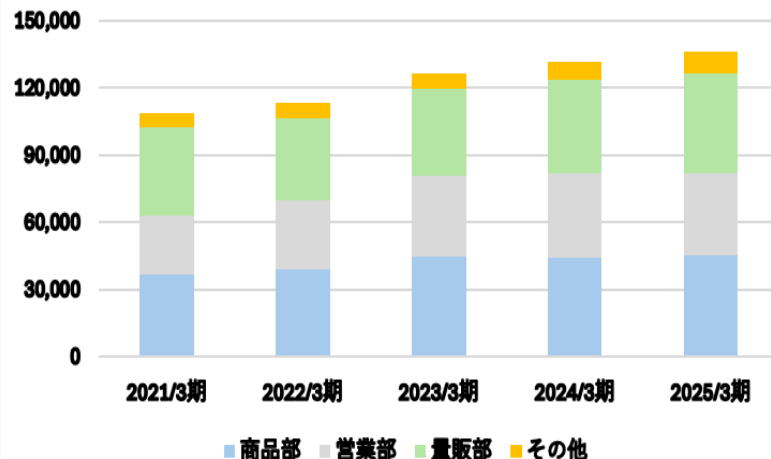
(冷凍魚類) 本マグロは2024年の緩やかな回復基調から頭打ちになる一方、ホタテ相場の上昇が目立つ。鮭鱈類は堅調。

8 主要セグメントの状況2（市場外水産物卸売事業）

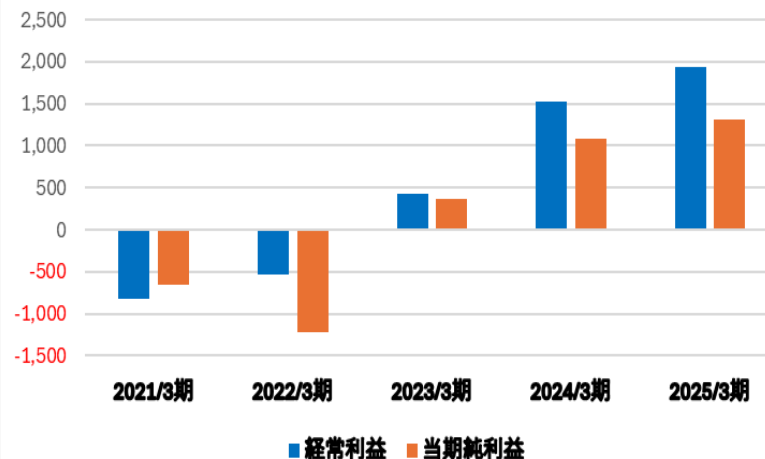
市場外水産物卸売事業（株式会社 ショクリュー）の業績

（*）売上高には外部顧客向け売上のほかにセグメント間売上高を含む

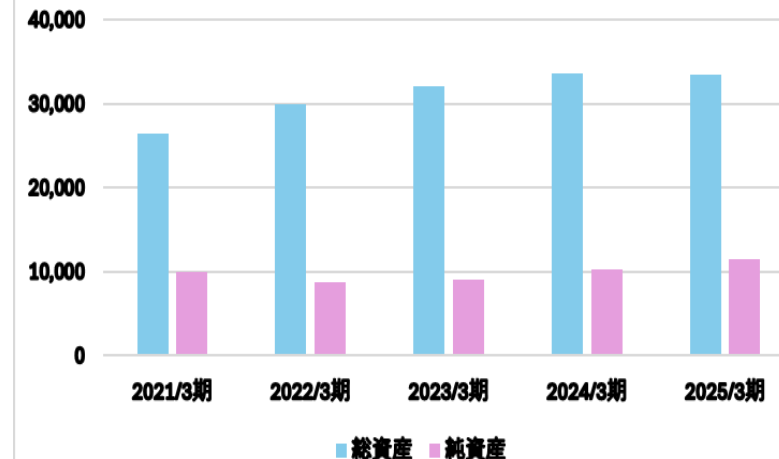
売上高推移（*）（百万円）



利益推移（百万円）



資産規模推移（百万円）



部門区分（商品部）国内外から冷凍エビなど水産物を幅広く調達し、積極的な外販を行うほか社内部門への商品を供給する。
 （営業部）自社加工品を含む各種水産物を外食・ホテル・居酒屋・中小スーパー・鮮魚専門店などの顧客に販売する。
 （量販部）自社加工品を含む各種水産物を大手スーパー業態・百貨店等の顧客に販売する。

<事業状況>

- （商品部）物流経費の上昇や円安の影響などにより各商材相場の高値が続く中、コスト上昇を販売価格に転嫁するとともに適正在庫を維持することにより、利益を意識した販売活動を実施。前年同期をやや上回る売上高となる。
- （営業部）外食需要や宴会需要、インバウンド需要は回復しているものの、値上げ疲れによる消費減退、飲食店などの倒産件数の増加が影響し、前年同期比では減収。
- （量販部）既存取引の深耕に加え、新規顧客の獲得に注力した。加工業者と連携し、原料調達から取り組む水産加工品の販売や取引先とタイアップしたオリジナル製品の開発が貢献し、前年同期を上回る売上高となる。

<損益状況>

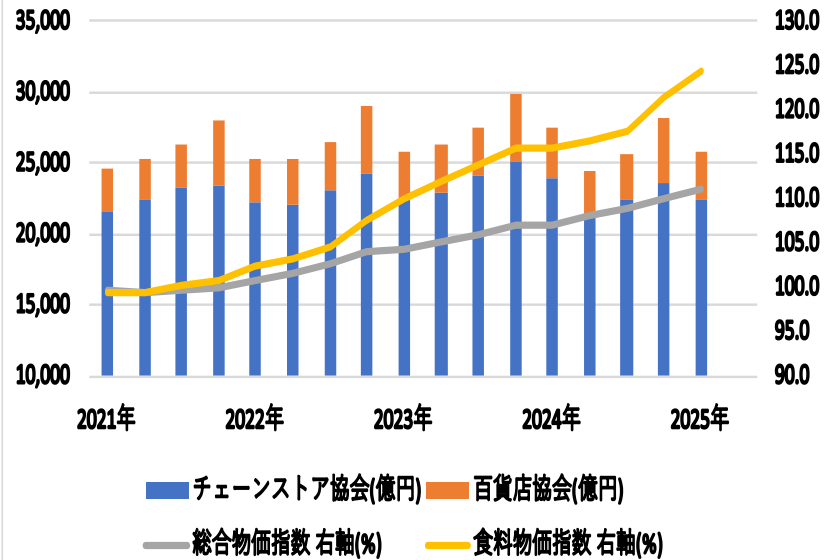
引き続き、適正な在庫管理に努め、各部門での適正な販売価格の設定などにより収益確保が奏功し、前年同期比増益を計上。

<その他、営業拠点投資など>

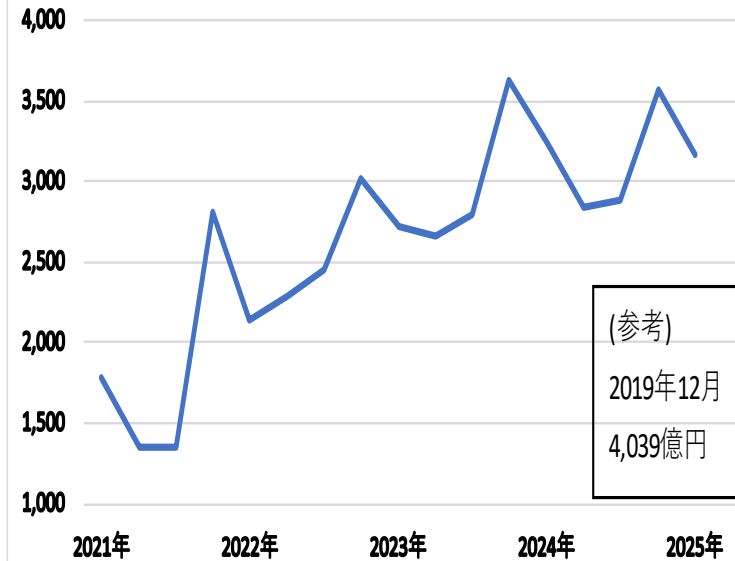
西関東地区を網羅する自社物流センターの建設および老朽化した横浜営業所の移転先として横浜市瀬谷区に用地を取得。

(参考) 市場外水産物卸売事業の営業環境の推移 (利用統計は暦年ベース)

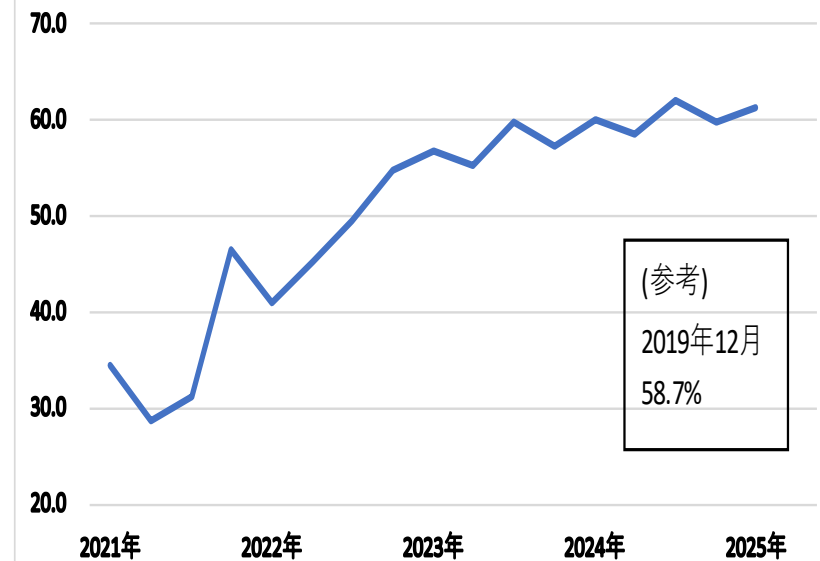
量販店食品売上高と物価水準 (暦年四半期分) (億円,%)



3大都市圏外食市場規模の推移 (暦年四半期末月) (億円)



宿泊施設稼働率推移 (暦年四半期末月) (%)



< 利用統計について >

- ・量販店統計のデータはチェーンストア協会、百貨店協会の食料品売上金額の月次データを四半期単位でそれぞれ合計し合算表示したもの、物価指数は総務省の全国四半期分平均データを使用。
- ・外食市場規模のデータは株式会社リクルートの月次外食総研調査の首都圏・関西圏・中部圏エリアの四半期末月分を合計しプロットしたもの。
- ・宿泊稼働率は観光庁(宿泊旅行統計調査)月次統計宿泊施設稼働率の四半期末月稼働率をプロットしたもの。(直近4半期末数値は観光庁の1次集計値、それ以前の数値は同庁の2次集計値)

< 外部事業環境について >

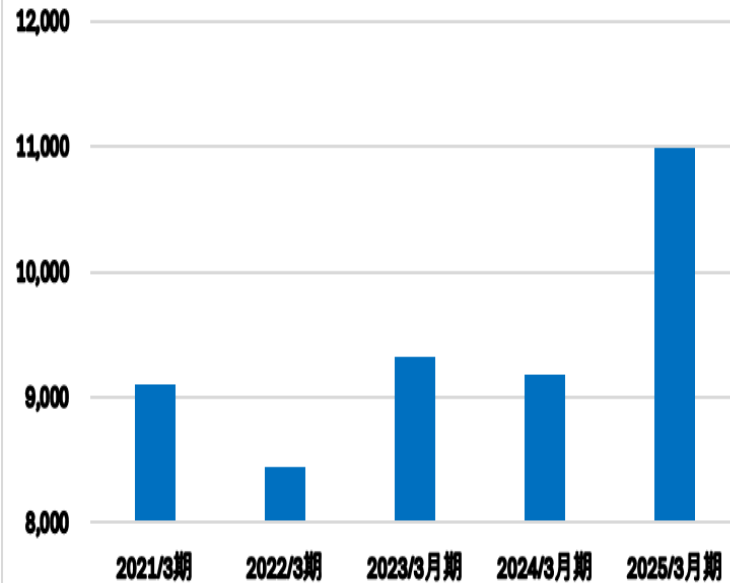
- ・量販店食料品売上は、例年第3四半期(10~12月末)にピークとなり6月頃まではやや低調に推移する傾向にある。近年は物価上昇の影響も受け売上金額は増加傾向にあったが、2025/3期は夏場頃から前年同期比で伸び悩みが見えてとれ、物価高が消費の足枷になっていると推測される。
- ・外食市場の動向は、堅調なインバウンド需要の継続などもあり、コロナ禍からの底打ち反転傾向は弱まりながらも継続しているものの、直近の3圏域市場の推定規模では2023年12月をピークに伸び悩む。
- ・宿泊需要の動向は、インバウンドによる需要増加などはあるものの、コロナ禍からの回復当初に確認された急激な宿泊施設稼働率の上昇は見られず、こちらも頭打ち感がある。

9 主要セグメントの状況3（養殖事業）（利用統計は暦年ベース）

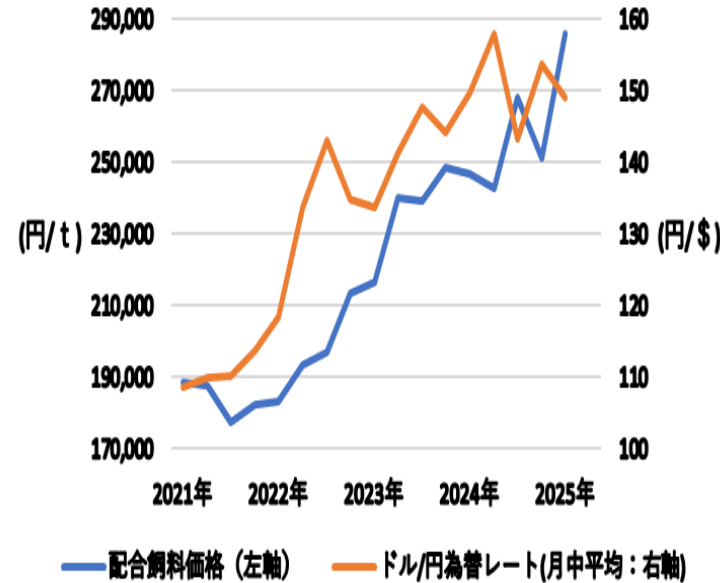
養殖事業（株式会社 兵殖 分）の事業環境

（*）売上高には外部顧客向け売上のほかにセグメント間売上高を含む

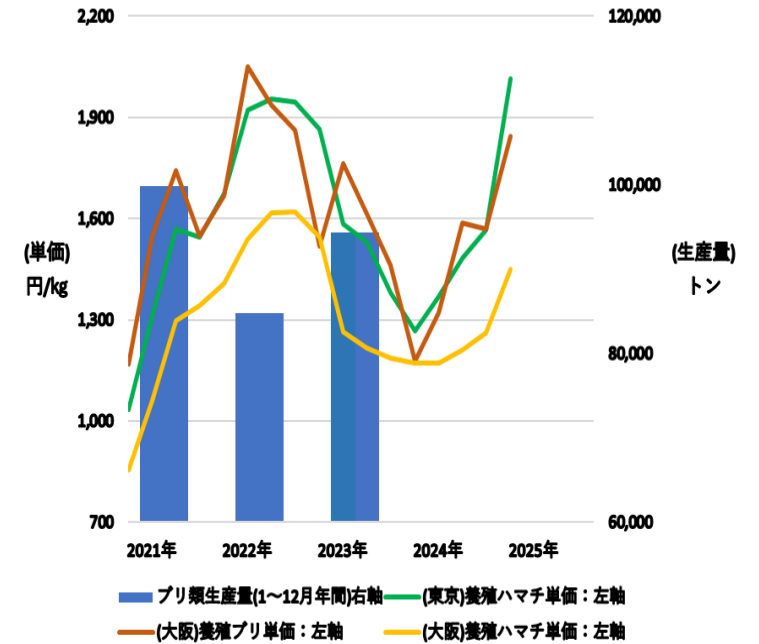
売上高推移（*）（百万円）



餌料単価と為替レートの推移(暦年)



養殖ブリ類の代表的市場単価推移と年間生産量(暦年)



<利用統計について>

- ・餌料単価用の平均配合飼料価格は水産庁集計データ（四半期末月の月中平均）、ドル/円為替レートは日本銀行の統計データ（四半期末月の17時時点の月中平均）を使用。
- ・なお、**ブリ類養殖にかかるコストの内訳で6〜7割を餌代が占めると**されている（令和6年2月の水産庁の資料「最近の養殖業の情勢」）。
- ・養殖ブリ類の年間生産量は農林水産省の調査統計データ(2024年分は2025年5月末公表見込のため未記載)、養殖ブリ・ハマチの単価は各地市場の統計による（四半期末月の月中平均単価）。

<養殖の事業環境>

ブリの供給量を決定する生産量は2022年に比べ2023年が増加したこと等の要因により、価格は2024年中盤にかけて下落した。直近の各市場での取引相場は、世界的な高水温による養殖魚の成育不良のため、全国的に小サイズのが多数出荷されて在庫消化が進んだこと等から在池量が減少したことなどにより、単価は上昇基調にある。一方、餌料価格は近年の円安圏内での相場推移の影響を引き続き受け高止まり状態にある。餌料・燃油等の生産コストの負荷は引き続き重く経営環境は依然厳しい。

<当グループの事業状況>

養殖事業の要となる株式会社兵殖は九州（大分・宮崎・長崎）、四国（高知）に養殖漁場を設け、ブリを主体に生産・加工・販売を実施。ブリの最需要期となる冬場も順調な販売を維持し、前年同期を超える売上高を計上。相場の回復は追い風ながらも、生産コストの高止まりが厳しい。

10 「OUGグループ中期経営計画2024」の2024年度実績

(億円)

	2023年度 (a) (2024年3月期) 【前中計実績】	2024年度 中計計画 (b) (2025年3月期) 【現中計 初年度の計画】	2024年度 実績 (c) (2025年3月期)	2025年度 中計計画 (d) (2026年3月期) 【現中計 2年度目の計画】	2025年度 業績予想 (e) (2026年3月期)	2026年度 中計計画 (2027年3月期) 【現中計 最終年度の目標】
売上高	3,331	3,350	3,500	3,380	3,450	3,410
営業利益	31	37	51	41	44	43
経常利益	39	37	58	41	45	43

(%)

ROE(株主資本利益率)	12.7		13.6			8.0
ROIC(投下資本利益率)	4.1		6.4			5.0

ROE・ROICの計測は各決算期末で実施

ROEは、8.0%の水準を維持する

ROICは、5.0%の水準を達成する

2024年度(2025年3月期)実績の対比

(億円)

	2024年度 (2025年3月期) 実績		2025年度(2026年3月期)予想
	前年対比 (c)-(a)	中期経営計画対比 (c)-(b)	中期経営計画対比 (e)-(d)
売上高	169	150	70
営業利益	20	14	3
経常利益	19	21	4

OUGグループ中期経営計画2024	
事業系テーマ	
1 鮮魚事業の強化 2 商品力の強化 3 関東マーケットの深耕・拡大 4 海外事業の拡大 5 サステナブルな事業活動	
経営基盤の整備・強化に関するテーマ	
1 事業ポートフォリオの見直し等の財務関連 2 人的資本充実等の人事関連 3 基幹業務システムの導入等のシステム関連 4 IRの体制整備・充実 5 品質保証活動の充実・高度化 6 サステナビリティの推進 7 共通機能の高度化	

「OUGグループ中期経営計画2024」の初年度である当2024年度の業績は、前年度実績や現中期計画を上回る売上高・利益を確保した。

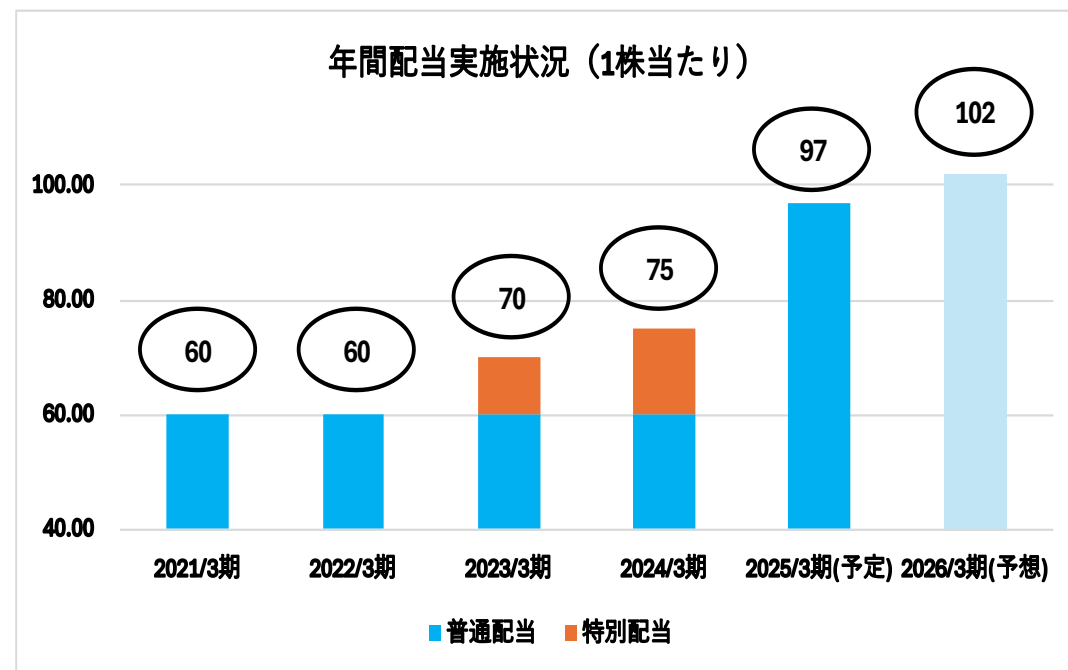
同下期は、ガス置換パック事業やマグロ加工事業の準備など2025年度の事業活動に向けての整備にも注力している。

引き続き当グループ中期経営計画2024で取組む、5つの事業系テーマと7つの経営基盤の整備・強化に関するテーマに注力し、「資本コストや株価を意識した経営の実現」を念頭に中期経営計画の最終目標を達成していく。

1 1 2025年度計画・予想と配当方針・配当予想について

(百万円)

	2024年度 実績 (ア) (2025年3月期)	2025年度 中計計画 (イ) (2026年3月期)	2025年度 業績予想 (ウ) (2026年3月期)	増減 (ウ) - (ア) (前期対比)	増減 (ウ) - (イ) (計画対比)
売上高	350,092	338,000	345,000	▲ 5,092	7,000
営業利益	5,100	4,100	4,400	▲ 700	300
経常利益	5,891	4,100	4,500	▲ 1,391	400
当期純利益	4,527		3,300	▲ 1,227	
1株当たりの配当 (円)	97 (予定)		102 (予想)	5	



業績予想について

2025年度(2026/3期)は、水産相場が比較的順調に推移し売上高・利益ともに好調となった2024年度に比べ、高水温の影響等で一部魚種の漁獲減や堅調な相場の下落懸念などから、インバウンド・宿泊等需要の堅調さもうかがえるものの、売上高は減収を予想。加えて、運賃・保管料等の経費高騰等の影響などを勘案し、利益も減益と予想。

なお、2025年度業績予想については、「OUGグループ中期経営計2024」における2025年度の売上高・利益額とも上方修正するものである。

配当予想について

配当については、中長期的な経営基盤の安定強化および成長投資に必要な内部留保の確保に十分留意しつつ、連結株主資本配当率(DOE) 1.6%を目途に安定的な配当水準を維持することを基本方針としている。

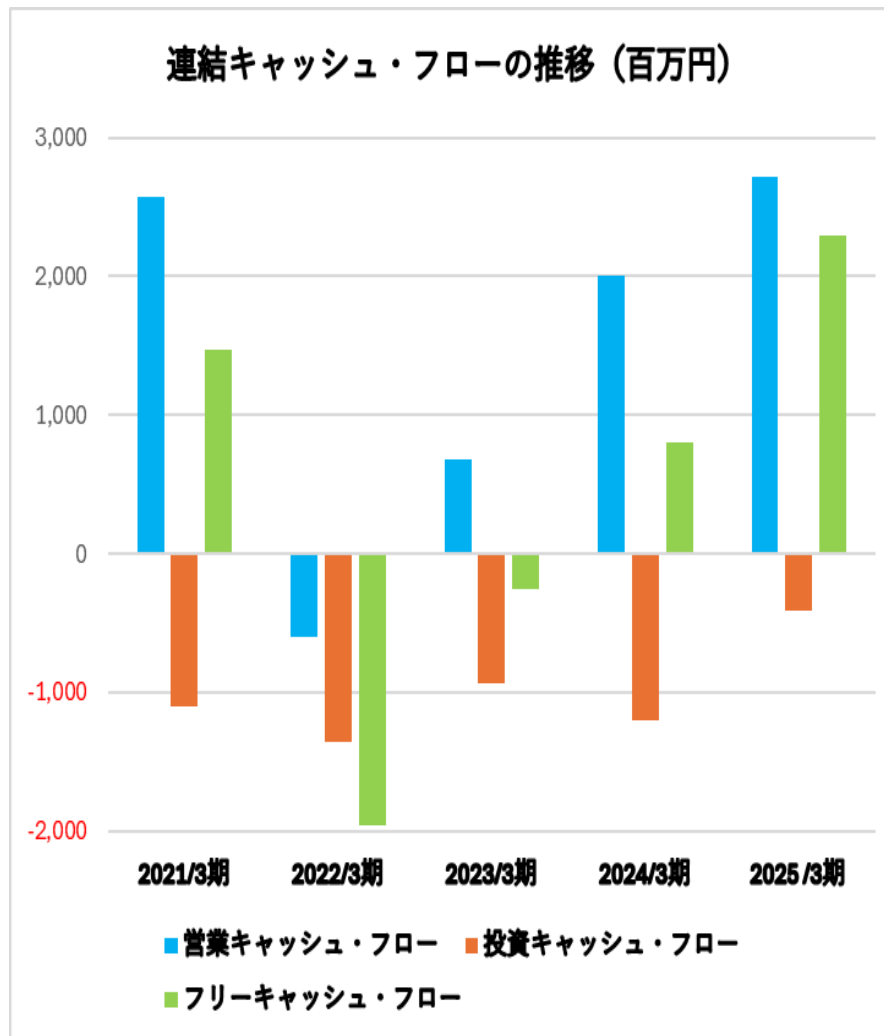
2025年度配当は、102円を予想している。

(連結株主資本配当率(DOE)は、連結株主資本から配当される割合を示しており、一時的な利益の増減に大きく影響されることなく安定的な配当の実現を可能とする指標)

12 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(百万円)

	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
税引き前当期純利益	1,740	2,370	4,488	3,748	6,563
減価償却	970	969	934	990	876
運転資金の増減 (▲は増加)	269	▲ 4,061	▲ 3,204	▲ 1,471	▲ 2,259
その他	▲ 410	120	▲ 1,536	▲ 1,260	▲ 2,464
営業キャッシュ・フロー	2,569	▲ 602	682	2,007	2,716
有形固定資産の取得 (▲表示)	▲ 946	▲ 1,114	▲ 1,048	▲ 613	▲ 1,694
有形固定資産の売却	48	31	290	17	1,448
その他	▲ 200	▲ 271	▲ 178	▲ 608	▲ 171
投資キャッシュ・フロー	▲ 1,098	▲ 1,354	▲ 936	▲ 1,204	▲ 417
フリーキャッシュ・フロー	1,471	▲ 1,956	▲ 254	803	2,299
うち配当金支払い (▲表示)	▲ 331	▲ 332	▲ 331	▲ 375	▲ 402
うち短期借入金の純増減 (▲は減少)	▲ 1,297	2,530	2,050	▲ 1,094	▲ 1,203
財務キャッシュ・フロー	▲ 1,549	2,483	399	▲ 1,113	▲ 1,938
(現金同等物の増減)	(▲ 78)	(526)	(145)	(▲ 310)	(361)
(現金同等物等期末残高)	(2,064)	(2,590)	(2,736)	(2,425)	(2,787)



1 3 連結経営指標の推移（5期推移）

	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
売上高 (百万円)	298,223	298,572	325,020	333,197	350,092
経常利益 (百万円)	1,727	3,092	4,276	3,912	5,891
当期純利益 (百万円)	1,141	1,344	3,078	3,618	4,527
1株当たり当期純利益 (円)	205.62	242.50	562.03	672.22	839.57
総資産額 (百万円)	72,733	78,742	81,988	91,150	90,270
純資産額 (百万円)	23,143	23,841	25,927	30,994	35,555
自己資本比率 (%)	31.8	30.3	31.6	34.0	39.4
自己資本利益率(ROE) (%) <注1>	5.2	5.7	12.4	12.7	13.6
投下資本利益率(ROIC) (%) <注2>	2.1	4.3	5.5	4.1	6.4
株価純資産倍率(PBR) (倍)	0.71	0.64	0.52	0.44	0.49
株価収益率(PER) (倍)	14.5	11.3	4.4	3.8	3.8

<注1> 自己資本利益率(ROE) = 当期純利益 ÷ 自己資本（期首期末平均）

<注2> 投下資本利益率(ROIC) = 税引後営業利益 ÷ （株主資本 + 借入金）（期首期末平均）

14 よくあるご質問について

- ① 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応についての当社の最初の整理表明は「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」（2024年2月8日開示）を参照。

https://www.oug.co.jp/ja/ir/news/auto_20240206527201/pdfFile.pdf

- ② 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応の更新については、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」（2025年2月13日開示）を参照。

https://www.oug.co.jp/ja/ir/news/auto_20250212569457/pdfFile.pdf

- ③ OUGグループ中期経営計画2024については、
・「『OUGグループ中期経営計画2024』の策定について」（2024年5月10日開示）を参照。

https://www.oug.co.jp/ja/ir/news/auto_20240509586806/pdfFile.pdf

- ・「『OUGグループ中期経営計画2024』の進捗について」は、2025年5月13日の別途開示を参照。

- ④ 配当については、
・「配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」2025年5月13日の別途開示を参照。

注意事項

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。
また、本資料の著作権やその他本書類にかかる一切の権利は OUGホールディングス株式会社に属します。

当資料に対する問い合わせ窓口

OUGホールディングス株式会社 経営基盤グループ 電話 06-4804-3031